

令和2年度 学校評価 自己評価書

あま市立甚目寺南中学校

1 総括

(1) 教育目標 (学校経営案より)

校 訓	真 真理を求め続ける生徒・教師	め ざ す 姿	・自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる生徒・教師
	善 礼儀正しい生徒・教師		・苦しさに負けないで心身を磨き、鍛える生徒・教師 ・場をわきまえ正しい判断のできる生徒・教師
	美 感性豊かな生徒・教師		・互いに相手を尊重することができる生徒・教師 ・正しいこと、美しいものに感動できる生徒・教師

※学校経営の理念；『学校は、楽しいところでなければならない。

しかし、歯をくいしばり 涙をこらえてがんばるところでもある。』
『時を守り、場を清め、礼を正す』

(2) 本年度の重点努力目標

ア 「よさ」に着目し、明るく、節度ある学校・学級づくり

- ・ ESD教育を推進し、人権教育を通して生徒が自己肯定感や自己有用感を高めることができる学校・学年・学級づくりに努める。
- ・ 全ての教育活動を通して、教師は人権感覚を磨き、心の居場所のある学校・学年・学級づくりに努める。

イ すべての生徒が「分かった」「できた」と実感できる魅力ある授業づくり

- ・ 基礎的・基本的な学習の定着を図るとともに、授業に対話的場面を取り入れ、深い学びができるよう工夫する。
- ・ 特別な支援を要する生徒一人一人のニーズを把握し、適切な教育的支援を行う。

ウ たくましく生き、心豊かな生徒の育成

- ・ 道徳の授業や全校及び学年での集会活動を核に、善悪の判断力・忍耐力を身につけさせ、規範意識の醸成を図り、モラル向上を図る。
- ・ 体験的な学習を重視し、個の可能性の伸長に努め、生涯学習の基礎的能力や態度を培い、社会の変化に対応し、主体的に生きていく力の育成を図る。
- ・ 発達段階に応じた心の教育やQ-U調査等により温かい人間関係づくりに努める。

エ 生徒の心を和ませる教育環境づくり

- ・ 教師の「語りかけ」を日頃から大切にし、心が通い合う環境づくりに努める。
- ・ 教師が丁寧な言葉づかいを心掛けることにより、正しい言語環境を構築する。
- ・ 「清掃活動」を推奨し、環境美化に力をいれることにより、思いやりの心を育てる。
- ・ 校内にある掲示板を有効に活用し、「ぬくもりのある学校・学年・学級」の雰囲気づくりに努める。

オ 共に育つ地域・校種間連携の推進

- ・ 学校から家庭や地域へホームページにより、積極的に情報発信をする。
- ・ 学校・家庭・地域及び関係機関が一体となり、「協働」して、地域で生徒を育てていただけるよう、積極的に情報収集し、一人でも多くの生徒が地域活動に参加できるよう促す。
- ・ 学校運営協議会制度の一層の充実を図り、PTA活動やおやじの会等とも積極的に連携を図り、家庭や地域及び関係機関等の教育力を生かした「開かれた学校づくり」の具現化を積極的に進める。
- ・ 本校の教育活動をより充実させるために、学校評価を実施し、その結果を有効活用しながら、具体的な対応策を考え、「信頼される・開かれた学校づくり」を進める。
- ・ 義務教育9年間を見通し、学習・生活面での指導や支援をより充実させるために、小・中学校教育及び近隣中学校との相互理解を図るための交流活動を行う。(小・中及び中・中連携教育の充実)

カ 多忙化解消のための業務改善

- ・ 部活動に係る活動時間の縮小や休業日の設定を適切に行い、教職員の部活動指導の負担減に取り組む。
- ・ 定時退校日を月1回以上設定し、退校時刻が定時に近づくように努める。
- ・ 会議の精選・効率化を図り、勤務時間に終了するように工夫する。
- ・ 教師の中の「子どものためであればどんな長時間勤務も良しとする」という意識を改革しながら、より効果的で持続可能な教育活動を展開していく。
- ・ 働き方改革を進めることが学校教育の質の向上につながることを、保護者や地域の方々に理解してもらえるように働きかける。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和2年11月16日～11月27日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
 - ・生徒 552名／全583名 ・学校運営協議会委員 8名／全11名（教職員除く）
 - ・保護者 502名／全536名 ・教職員 31名／32名 計1093名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考察

- (1) 全体を通して、肯定的な回答をした保護者、生徒の割合は、昨年度より多い。一昨年度から学校が落ち着いており、新型コロナウイルス感染症予防の中、教師、保護者、生徒が一体となって取り組んでいる結果と考えられる。今後も今まで以上に生徒の気持ちに寄り添いながら対応していく大切さを感じる。
- (2) 今年度の重点目標である「あいさつ」と「時間」については、昨年度に比べると生徒、教師共に「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした割合が増加しており、継続的に取り組んだ成果であると同時に、PTAと協力しておこなっているオアシス運動もその一因と考えられる。
- (3) ホームページに関しては、閲覧回数が大きく増加し、昨年度以上に多くの保護者に興味をもってらっていると思われる。新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の学校参観が行われないことも、関心が高い要因と考えられる。今後も家庭との連携をより密にできるように取り組んでいきたい。
- (4) 学校運営協議会委員からは、新型コロナウイルス感染症の中、できることを探しながら教育活動をしていただき、苦労があったとねぎらいの言葉をいただきました。今年度は、PTA役員による体育館のカーテン修理、花壇の花の植え替えと除草作業を行うことができました。

5 成果と課題

- (1) 学校運営
 - 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が、昨年度と比べると大きく増加する回答結果となっている。新型コロナウイルス感染症予防の中、生徒が学校で毎日楽しく生活し、保護者もそれを十分に感じており、教師もいろいろな制限のある中、笑顔あふれる学校生活を送れるように努めていることが伺える。
- (2) 学習・部活動
 - 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が、昨年度と比べると大きく増加する回答結果となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で、4月、5月が休業となり、通常より少ない時間数で授業を行うため、教師は、分かりやすい授業展開を工夫して取り組んだ結果と考えられる。また、今年度の学習指導の重点目標が「『分かった』『できた』と実感できる魅力ある授業づくり」であったことも、要因の1つと考えられる。「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした生徒の割合は増加している。これは、新型コロナウイルス感染予防の限られた時間の中、生徒は一生懸命に取り組んでいる結果と考えられる。保護者の「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした割合が減少しているのは、教師の働き方改革も大きく影響しているのではないかと感じている。今後は、教師の働き方改革と部活動の在り方を検討すると共に、保護者と協力して南中学校における魅力ある部活動にしていきたいと考える。
- (3) 生徒指導
 - 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が、昨年度と比べると大きく増加する回答結果となっている。様々な悩みをもった生徒が教師に相談し、一つ一つ丁寧に対応したことが、大きく増加した結果につながったと考える。今後も、多様化する生徒の悩みや相談に対して、今まで以上に寄り添った指導を心掛け、保護者と生徒、教師の信頼関係をより強くしていくために、遠慮なく学校に連絡し、相談できるような態勢づくりに努めていく必要を感じる。
- (4) 人権教育
 - 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が、昨年度と比べると増加する回答結果となっている。職員室への入室における言葉遣いの指導も増加した要因の一つと考える。また、今年度、日頃の授業における「君」付け、「さん」付け等に気を配った結果と考える。今後も、一層言葉遣いに気をつけた指導を心がけていきたいと思う。
- (5) 環境
 - 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、教師の割合が、昨年度と比べると大きく増加する回答結果となっている。新型コロナウイルス感染予防のため、消毒や感染予防の啓発をう

ながす掲示物等により、保護者や教師は、強い肯定的な回答をした割合が増えたのではないかと考える。しかし、生徒は記述のアンケートにもあるように、「トイレをきれいにしてほしい」との意見が複数あり、その結果、強い肯定的な回答率が減少したと伺える。また、ところどころ老朽化が目立つ部分もある。毎月の安全点検をていねいに行い、修理が必要な場合は、校務主任と保健指導主事が中心となって対応していこうと考える。

(6) 連絡

- 「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者、生徒、教師の割合が、昨年度と比べると増加する回答結果となっている。今年度、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年実施されている家庭訪問が中止になった。そこで、教師は、今まで以上に生徒の小さなトラブルに対しても放置するのではなく、家庭と連絡をとり、連携して生徒指導に当たっている。その結果、強い肯定的な回答の割合が増加したのではないかと考えられる。また、学級通信を配付している担任教師が増えており、学校・学級の様子を積極的に発信していることも要因であると思われる。今後も家庭との連絡を密にとっていきたいと思う。

6 改善策

(1) 学校組織

日頃の人間関係を大切にしたい組織づくりを行い、困ったときに声を出して話せる職場づくりを重視していきたい。

(2) 学年、学級経営

学年、学級経営は学校づくりにとって重要である。そのため、生徒一人一人に寄り添いながら、教育活動を行っていくことが大切である。生徒の姿をしっかりと見つめ、生徒に必要な支援を行いながら学級経営、学年経営を行っていくように心がけたい。

(3) 特別支援

特別支援教育は、教育活動の原点である。個に応じた指導のために、その個をしっかりと見つめ、個に応じた支援計画・指導計画を立てることが重要である。そのために、特別支援に関わる職員の情報交換を大切にしていきたい。昨年度から、特別支援学級担当教師で打合せの時間をつくるなど、多くの目で見守る支援を確立してきた。今後、学年主任やSC、SSとの情報共有を意識していきたい。また、特別支援学級の生徒については、家庭における状況の把握や、学校での学習内容の報告など、保護者との連携を密にすると共に、外部機関とも積極的に連携を図っていきたい。

(4) 校務分掌

円滑な教育活動を進めるため、学校の職員が役割分担し、相互に連携しながら活動するのが校務分掌である。そのために、経験豊富な教員と経験の少ない教員、本校における勤務年数などを考慮してペアを組むなどの工夫をして、校務分掌を決めていきたい。

(5) 研修活動

新学習指導要領において、教員の資質向上が、学校現場で直近の課題である。そのためには、授業研究、現職教育の研修を行い、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開を検討し、実践する教員の育成を心がけていきたい。

(6) 道徳指導

新学習指導要領において、道徳教育の充実が重要である。3年前から行っている月曜日の朝に月1回のペースで行っているところUPタイムを次年度も続け、生徒に道徳的心情を高める取組を継続していきたい。

(7) 保健・安全指導

保健安全指導の重点は、自他の健康と安全を守ることにある。新型コロナウイルス感染予防対策もその1つであり、そのために、自分に優しく、他人に優しくなれる心情を、道徳教育と共に取り組んでいきたい。全学年で行っている薬物乱用防止教室、2年生で行うAED講座、3年生で行う思春期講座など、次年度も生徒にとって将来必要な講座を継続的に行っていきたい。

(8) 学力向上

学校生活において、当然のことながら求められているのは、個々の生徒に確かな学力を身につけさせることである。学力向上のためには、新学習指導要領に基づいた教材研究が重要である。さらに学力向上の取組には、検証が必要である。生徒の課題は何か。どこができて、どこができないのだろうか、その理由は何だろうか、またその解決のための方策はどうするべきか、それを実践し、その成果と課題を明らかにする一連のサイクルの確立が求められる。さらに、学習規律や家庭学習の充実のための学習習慣など、生徒の側に立った指導をしていきたい。

(9) 授業づくり

教師は授業が大切である。生徒にとって分かる授業をたえず工夫し、授業改善を図ろうと努める先生は当然のように生徒指導も成立する。生徒の学習状況が好ましくないのは、生徒に問題があるのではなく、教師の授業づくりに課題があると考えて、日々工夫・改善を図っていきたい。

(10) 生徒活動

生徒を信じて伸ばすことが、生徒活動の重要な視点である。結果的に生徒は、教師の指示されたように活動すればよいとなっていないか。生徒の発想は斬新であり、学校がよくなるのは生徒が本来

もっている力として発揮させることにある。そのための支援をするのが教師である。教師が活動の前面に立つのではなく、生徒の活動における黒子であり、ねらいの立て方や活動の仕方、手順などを指導し、最終的には生徒自身の手で活動できるように育てることを意識したい。

(11) 保護者（地域）との関係

不安や悩みを抱えている保護者の立場になって心から耳を傾け、必要なことを伝えることは学校教育を進める上でも、保護者との信頼関係を築く上にも極めて大切である。様々な状況を含め、保護者と積極的に関わることが教育活動を進めていくなかで極めて重要であると位置づけたい。

(12) 地域との関係

地域あつての学校である。学校は改めてその意識を内向きから外向きに視点を移していかなければならない。そのため、今年度よりスタートした学校運営協議会（コミュニティ・スクール）をより活用し、地域の中で育つ生徒の育成を意識して取り組んでいきたい。また、開かれた学校を目指し、通信、ホームページ等、様々な場面で本校の教育活動を発信していきたいと考える。

(13) 問題行動

問題行動の対応の基本は 一つは「毅然とする生徒指導」である。問題行動を繰り返す生徒にも、次回への期待を込め、温情的な采配をふるうことが多くみられるが、教師や生徒への危害、学校の安心安全に大きな問題としてその都度対応を余儀なくされる現実がある。集団の秩序を乱し、人に危害を加える行為を中心に、対応のレベルを明確にし、保護者や生徒へ具体的に提示する。該当の行為が見られた場合は、関係機関と連携して厳正な対応を行う。

二つ目は生徒理解にもとづく対話である。生徒理解とは、生徒の置かれている状況を理解し、ありのままを受容する行為である。具体的には「分ってあげる」ことである。それは顕著な問題行動を繰り返す生徒ばかりでなく、それ以外の生徒に対しても同様の対応が求められる。生徒理解とは生徒を甘やかすことではなく、生徒個々に寄り添い、現在地を理解させ、自分自身を振り返り考えさせ、自分を律する心をもたせることに力点を置きたい。

(14) 学校図書

読書がもたらす学力の向上、落ち着いた生活態度を受け、毎朝、読書タイムを設け、文字離れが進む中学生に歯止めをかけると同時に、1時間目の授業を落ち着いて受けるための時間としたい。また、図書支援員の協力により、利用しやすい図書室づくりが進められている。今後も本が好きな生徒の育成に力をそそいでいきたい。

(15) 学校通信・ホームページ

学校からの様々な通信は保護者や生徒との信頼をつなぐ絆である。形式的な内容ではなく、生徒の様子、学級活動の様子など生徒の励みとなるよう工夫する。また、保護者が家庭にいても学級の活動の様子が手に取るように分かり、通信の話題が親子の会話の潤滑油となり信頼関係を構築するために必要な内容となるようお願いしたい。

ホームページに関しては、新型コロナウイルス感染予防のため、学校公開等が中止になる中、例年以上に必要性が高まっていると感じる。次年度も引き続き最新の学校の様子を発信していきたい。

(16) 部活動

部活動は、信頼や絆を深めたり、人間性を高めたりするのに一役を担っている。技能だけでなく、礼儀マナーを身につけ、集団としての意識を高め、目標達成のために努力することを学ぶ場でありたい。働き方改革が進む中、限られた時間で主体的に取り組むことができる魅力ある活動になるよう工夫していきたい。